創業理念・長期ビジョン

創業理念　**和の精神　誠意・熱意・創意**

長期ビジョン

顧客・協力会社、株主、社員の満足度の向上、および地球環境・社会への貢献に邁進する企業

創業140年（2032年1月）時点でのありたい姿
（2024年4月、中期3ヵ年計画スタートのタイミングで、長期ビジョンを「創業140年時点でありたい姿」と定義付けをし内容を変更）
浅沼組は、あらゆる方々に支えられて事業を営んでいます。仕事を任せてくださるお客さま、現場の施工をともに担う協力会社さま、当社を応援してくださっている株主さま、そして会社を動かす社員。これら全てのステークホルダーに満足していただき、「浅沼組で良かった」と思っていただける事業活動を行う会社でありたいと考えます。また同時に、地球の一員として、社会の一員として、地球環境と社会のより良い未来を創る企業を目指しております。

経営方針

「仕事が仕事を生む」の信念の下、誠実なモノづくりに専心します。

- 社会の安全・安心・快適の増進に貢献します。
- 技術力・知力・感性を磨きます。
- 現場・現物・現人主義を貫きます。
- 堅実経営に徹します。

中期3ヵ年計画

2024～2026年度の計画 詳細はP.15を参照

1. 国内コア事業の強化
2. リニューアル事業の強化
3. 人材の獲得・確保・育成
4. DX推進
5. ガバナンス・コンプライアンス・リスク管理の強化
6. 環境・社会への貢献

［ 編集方針 ］

浅沼組では、これまで発行してきた「CSR報告書」を廃止し、2024年度より「統合報告書」を発行いたしました。本報告書は、当社および当社グループの経営戦略、財務情報、ESGの取り組みなどについて統合的にお伝えするとともに、ステークホルダーの皆さまに、当社グループに対する理解をより深めていただくことを目的としています。

［ 報告対象範囲 ］

- **対象範囲**：株式会社浅沼組および連結子会社
- **対象期間**：2025年4月1日～2026年3月31日（一部対象期間前後の情報を含めています。）

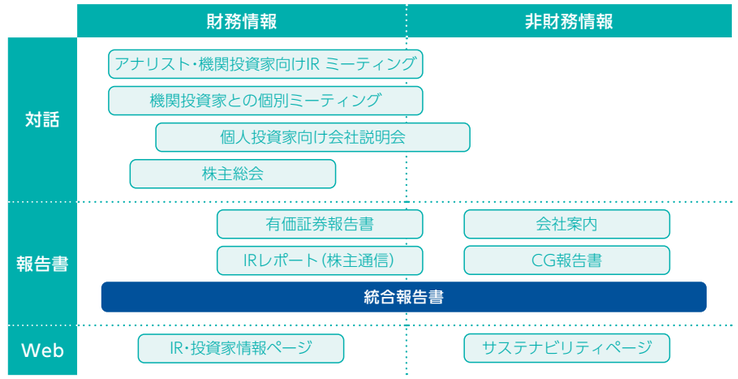
［ 免責（将来の見通しに関する注意事項） ］

本報告書に掲載しております計画、予測または見通しなど将来に関する事項は、本報告書発行日現在における当社の戦略、目標、前提または仮定に基づいており、実際の業績は、さまざまな要素により記載の計画、予測または見通しなどと異なる結果となる可能性があります。

［ 参考ガイドライン ］

- 環境省　環境報告ガイドライン
- 経済産業省　価値協創ガイダンス
- IFRS財団　国際統合報告フレームワーク
- GRI　サステナビリティ・レポーティング・スタンダード

［ 情報開示体系 ］



［ その他（発行年など） ］ 発行年：2026年10月発行

Contents

イントロダクション
1 創業理念・長期ビジョン
3 At a glance
5 浅沼組の歴史
7 浅沼組の特徴・強み

価値創造プロセス
9 トップメッセージ
15 中期3ヵ年計画
21 価値創造プロセス
23 6つの資本
25 マテリアリティ
26 海外展開50周年

成長戦略
31 建築事業
36 土木事業
38 海外事業
39 技術開発

サステナビリティ経営
43 サステナビリティ関連担当役員メッセージ
44 サステナビリティ推進委員会の取り組み
45 GOOD CYCLE PROJECT

E 環境
47 環境方針・温室効果ガス削減目標
48 ZEB・ZEHへの取り組み
49 環境マネジメントシステム
50 CDP気候変動質問書2025年度の主な環境目標と実績
51 投入資源と副産物実績
52 TCFD提言への賛同

S 社会
53 人材戦略－働き方改革の推進
54 ダイバーシティの推進 障がい者雇用の推進
55 人材育成
56 安全衛生
57 協力会社とのパートナーシップ
58 社会貢献活動

G ガバナンス
61 コーポレート・ガバナンス
62 役員一覧
63 スキル・マトリックス 役員報酬制度
64 取締役会実効性評価
65 社外取締役対談
67 株主・機関投資家とのコミュニケーション
68 リスクマネジメント
69 コンプライアンス
70 情報マネジメント

財務セクション・会社概要
71 財務データ
73 非財務データ
74 会社概要

At a glance
データで見る 浅沼組

（2026年3月31日現在）



ROE
10.9%

自己資本比率
42.1%



営業利益
7,211 百万円

売上高
1,752億



94百万円

平均勤続年数
（単体）



21.8年

創業
134年



関連会社数
（非連結含む）



11社

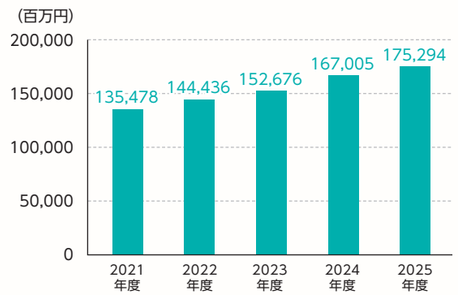


従業員数
1,806名

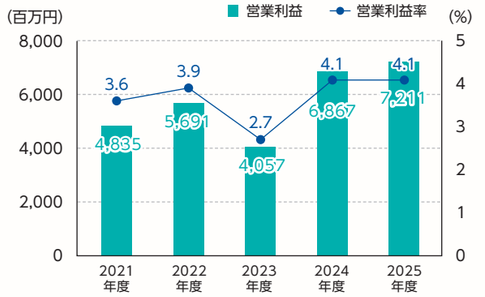
営業拠点
22箇所
（内、グアム1箇所）



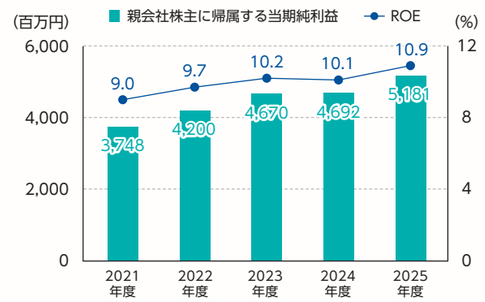
売上高



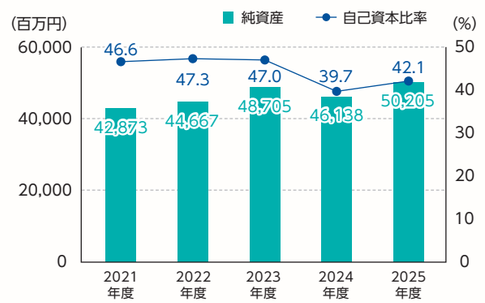
営業利益（額・率）



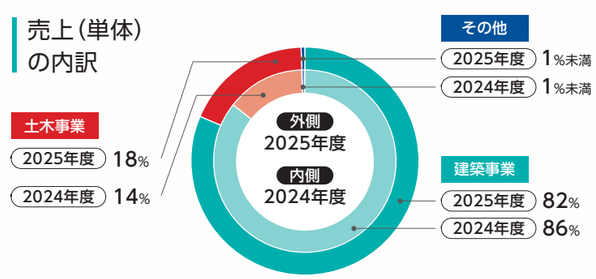
親会社株主に帰属する当期純利益・ROE



純資産・自己資本比率



売上（単体）の内訳

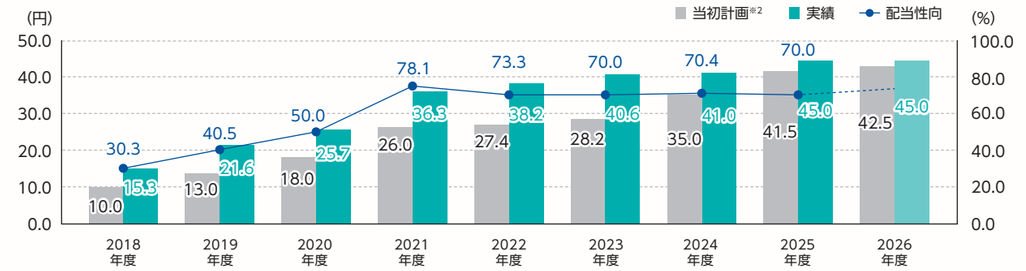


事業別売上高

（百万円）

	2024年度	2025年度
建築事業	134,318	130,144
土木事業	20,957	27,964
その他	445	488
合計	155,720	158,596

配当金額・配当性向



※1 2018/10/1株式併合（10株→1株）、2022/8/1株式分割（2分割）、2024/8/1株式分割（5分割）を実施しているため、記載金額は割合調整を実施
※2 2018年度、2021年度、2024年度を初年度とした各中期3ヵ年計画にて開示した当初の計画。但し、2025年度の配当金額は中期3ヵ年計画にて開示していないため、2025/5/14付の決算短信にて開示した予想金額を記載

淺沼組の歴史

当社は創業以来130年以上にわたり、変わらぬ「ものづくりへの情熱」と「創業理念」を胸に、人々の想いに真摯に向き合い、磨き続けてきた技術力を通じて、お客さまや社会と信頼関係を築きながら歩んできました。
これからもその姿勢は変わらず、社会の安全・安心・快適を支える存在として社会の発展に貢献してまいります。

起源～

淺沼組創業

淺沼組の起源は大和国郡山藩の藩主、柳澤家の普請方として仕えた淺沼家に由来します。
明治に入り、1892年（明治25年）大工棟梁に転身した淺沼幸吉が現在の奈良県大和郡山市に建設請負業淺沼組を開業しました。
1901年に継承した初代淺沼猪之吉は宮大工として社寺建築で活躍。また、上市町立尋常高等小学校建設で大きな評価を得たことで、「学校の淺沼」が諸官庁の間で認識され、その後も多くの学校建設に携わりました。

創業者 淺沼幸吉




淺沼組本店（大和郡山市今井町）


奈良県立畝傍中学校

1927年～

会社設立と飛躍的な成長

1934年（昭和9年）に2代目淺沼猪之吉が継承、1937年に株式会社淺沼組を設立し、拠点を大阪に移しました。
学校建築の受注が相次いだほか、大阪市立桃山病院や大阪市の市営住宅など大規模工事を完遂。常に新しい建築技術を模索し鉄筋コンクリート造など近代建設時代の要望に応えました。
業務拡張に伴って東京・名古屋へ進出した後も飛躍的な成長を遂げ1940年の決算では受注高が1,000万円を突破しました。

設立時の社章


大阪市立桃山病院

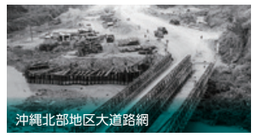

下寺町集合住宅

1945年～

戦後復興期の業容拡大

終戦後の復興と急速な経済発展に伴い建設需要が増大しました。当社は建設技術の高度化や機械化投資により、工期の短縮と工事の大型化を実現。多岐にわたるプロジェクトを手がけ、営業網を全国に拡大しました。
土木分野では国内に前例のない仕様であった沖縄の北部地区大道路網を完成させました。当社の本格的な土木部門のスタートであり、この経験が後の重機土木に強みを持つ淺沼組につながりました。


大阪統制無線中継所


沖縄北部地区大道路網

1969年～

東証一部上場と海外展開、技術研究所の発足

総合建設会社としての基盤を確立した当社は1969年（昭和44年）に東証一部上場を果たしました。
当社にとっての３大工事であった、筑波大学・研究施設など建設工事、沖縄各所の通信網整備工事、奈良の市庁舎・県立病院建設工事を完遂。海外ではグアムを拠点にサイパンでの工事を受注するなど海外事業の礎を築きました。土木では初の本格海上工事として関西国際空港の連絡橋建設を担いました。
1987年には技術研究所を設立し、現在まで経験と実績を積み重ねています。


関西国際空港連絡橋


筑波大学学生宿舎


奈良市庁舎

1989年～

試練の時代と技術開発

バブル崩壊の影響や建設投資の大幅な減少などで業績が落ち込み、建設業界全体が試練の時代を迎えましたが、当社は徹底した経営改革で危機を乗り越えました。
またさまざまな技術開発により、多様化する建設ニーズに対応。淺沼組超高層RC工法を開発し、2003年（平成15年）には当時西日本一の高さを誇る51階建集合住宅（シティタワー大阪）を設計施工しました。さらに阪神・淡路大震災を受けて高まった免震・制振構造の要請にも技術で応えました。


シティタワー大阪


京都大学稲盛財団記念館

現代

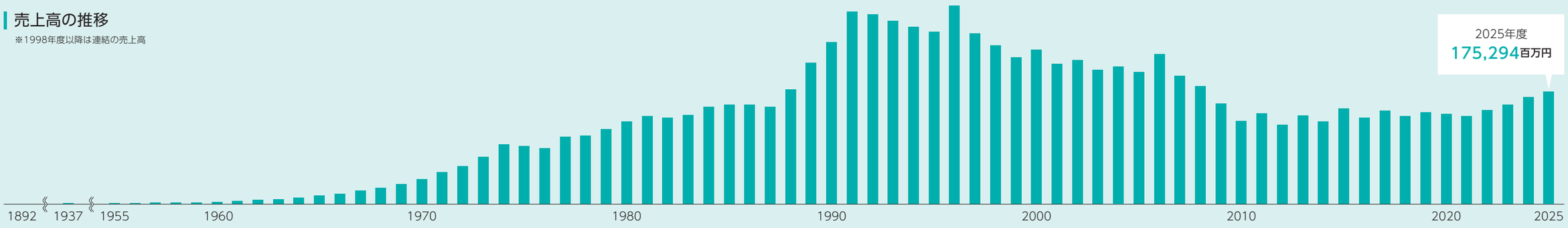
建設業の未来を見つめて


2025年日本国際博覧会
オランダパビリオン（大阪府）

事業地域の多角化を目的とした海外子会社のM&Aや、2021年（令和3年）に発表したリニューアルブランド「ReQuality」の推進など、持続可能な経営を目指した取り組みを行っています。
さらに2024年には創業140年（2032年）時点でのありたい姿として長期ビジョンを設定し、「中期３ヵ年計画（2024年度～2026年度）」を策定しました。
2025年には、大阪・関西万博においてオランダパビリオンの施工を担当するなど、プロジェクトを通じて存在感を高めています。
淺沼組は全てのステークホルダーに満足していただける事業活動を行う会社であると同時に、地球環境と社会のより良い未来を創る企業を目指してまいります。

売上高の推移

※1998年度以降は連結の売上高



淺沼組の特徴・強み

1 堅実経営、リスクを極小化したバランス型経営

■ 経営方針通りの堅実経営

無理な受注をせず、受注時利益率の確保や施工体制の確保など、さまざまな視点で戦略的な受注の獲得に努める「選別受注」を徹底

▶ 利益率や品質の確保に寄与

■ 特に建築において、多様な工種・案件をバランス良く獲得

▶ リスク分散および多様な工種の実績の積み上げを実現

過去の厳しい経営環境においても、これらの堅実経営こそが当社の持続性と成長の原動力となってきたもの

（参考）「選別受注」とは

1. 諸条件を多角的にチェックする受注（以下、例）
・受注時利益率（工事種類などに応じてハードルが異なる）　・4週8閉所での工程　・社員・協力会社の配置確保
・案件ごとに顧客との適切な支払条件を設定、立替金額の管理・キャッシュフローの維持　・その他、施工の難易度など

2. バランス型ポートフォリオを意識した受注（以下、例）
・工事種類などに応じた上限値・目標値を設定　・建築官庁比率の目標設定

2 ノウハウ・対応力による高品質な施工とサービスが生んだ、130年超の歴史と信頼

■ 顧客の要望に真摯かつきめ細やかに対応

・日本国内ゼネコンの売上高では上位20位前後を推移する中堅ゼネコンであり、意思決定において小回りが利きやすい組織特性
・創業者の信念「仕事が仕事を生む」の文化が根付いており、顧客の要望に真摯に向き合い、きめ細やかに対応する企業風土

■ 「現場力」＝現場社員の問題解決力・顧客折衝力の高さへの自負

・案件規模は大手に比べ小さいため、現場社員は着工前～竣工まで、施工の全てのフェーズを経験するとともに、多様な工種に携わり経験を蓄積
・上記により、現場社員には総合的なノウハウ・アイディアがあり、高い問題解決力・顧客折衝力を有すると自負する

■ ネガティブ事象に対する徹底した原因追及と知見の蓄積

・施工不具合などといったネガティブ事象に対して、誠実に向き合い、原因追及を徹底する仕組みができており、改善策などを会社全体の知見・ノウハウとして蓄積。新たな現場が開始される際には、「図面検討会」や「施工検討会」において、品質に関するノウハウを有する専門部署も参画し、案件の点検を行うことで、高品質な施工を提供

3 先進的な視点を持ち、早くから挑戦する精神

■ 環境配慮の取り組み、環境配慮型ビジネスに早期着手

・2010年～「エコフレンドリーASANUMA21」、2021年～「GOOD CYCLE PROJECT」を立ち上げ、名古屋支店改修PJは、業界内でも注目を浴び、国内外から18個の受賞、顧客を中心に延べ2,000人超が見学に来訪するほどの反響多数

■ リニューアルを成長戦略の柱に

・いち早く「受け身のリニューアル」から「攻めのリニューアル」に転じ、中長期戦略の柱の一つとして強化ブランド「ReQuality」を展開

■ ガバナンス・資本効率を意識した経営に積極対応

・中堅ゼネコンの中で早い段階から取り組み、現在も株主還元や資本効率経営・IR活動も積極的に実施

4 建設好きや会社に愛着を持つ社員が多い

■ 仕事に誇りを持ち、人を大切にし、会社に愛着を持つ社員

当社には、ものづくりへの情熱と仕事への誇りを持ち、お客さまや仲間、そして会社を大切に思う社員が数多くいる。建物の細部にまでこだわり、自ら携わった現場に愛着を持ち、子どもや孫にも入社を勧める。こうした社員一人ひとりの想いこそが、創業130年を超えて培ってきた信頼の礎となっている。

淺沼組の強みの結晶

名古屋支店改修PJ

■ 「循環型建築」×「リニューアル」という、先進的な視点
■ 技術力・知恵・経験値の集大成
■ 建築への情熱とこだわり
■ プロジェクト決行を見定める経営層の意思決定の力、中堅ならではの思い切った判断

▼

① 国内外で認証取得・18個の賞を獲得
② 顧客を中心に延べ670社・2,000人超が名古屋支店見学、高い評価
③ 名古屋支店を見て優秀な社員が入社





オランダパビリオン

■ 建築人としての誇りと情熱
■ 顧客要望へのきめ細やかで粘り強い対応
■ 技術力・知恵・経験値の集大成

▼

① オランダ王国とのご縁、総領事から寄せられた評価
② 現代建築の「移築」という史上初の循環型建築への挑戦
③ 多大な広報効果、地上波の番組にも登場
④ 万博をきっかけに循環型建築推進者などのさまざまなつながりや人脈



総領事からのコメント

大阪・関西万博への参加にあたり、私たちオランダは「地球規模の課題を共に解決し、次世代に希望とひらめきを伝える」というビジョンを掲げました。未来を担う世代に、地球規模の課題と向き合うインスピレーションを与えたい。その思いを「新たな幕開け」として形にすることを目指しました。その象徴となるオランダパビリオンを現実のものにしてくださったのが淺沼組です。1970年の大阪万博で大きな貢献を果たした淺沼組が、今回私たちにとって最も信頼できるパートナーでした。数多くの壁を乗り越え、あらゆる局面で共に尽力してくださったことに心から感謝を申し上げます。その姿勢はまさに「星5つ」に値すべきものであり、皆さんが成し遂げた仕事を大いに誇りに思っていただきたいと思います。